

県建築構造設計事務所協会 設立

初代会長
木場 氏

多くの情報収集を



木場正人初代会長

「県建築構造設計事務所協会」の設立総会が5日、鹿児島市のホテルユニオンで開かれ、技術の研さんなどを柱とする活動方針案や会則が示されたほか、初代会長に南鹿建設の木場正人氏が選任された。

同協会では、今年8月に発足した「日本建築構造設計事務所連合会」設立を受け、県内の建築構造設計事務所間の設立に向けた準備を進めていた。

総会では、設立趣旨や会則が読み上げられた後、8人の理事が選出された。その後、木場会長が「設立したからには、末永く存続させ、誇りを持って仕事ができるようにしていかなければならない。まずは連合会に加盟し、いろいろな技術情報を得ていきたい」と就任の決意を語った。

新役員は次の通り。



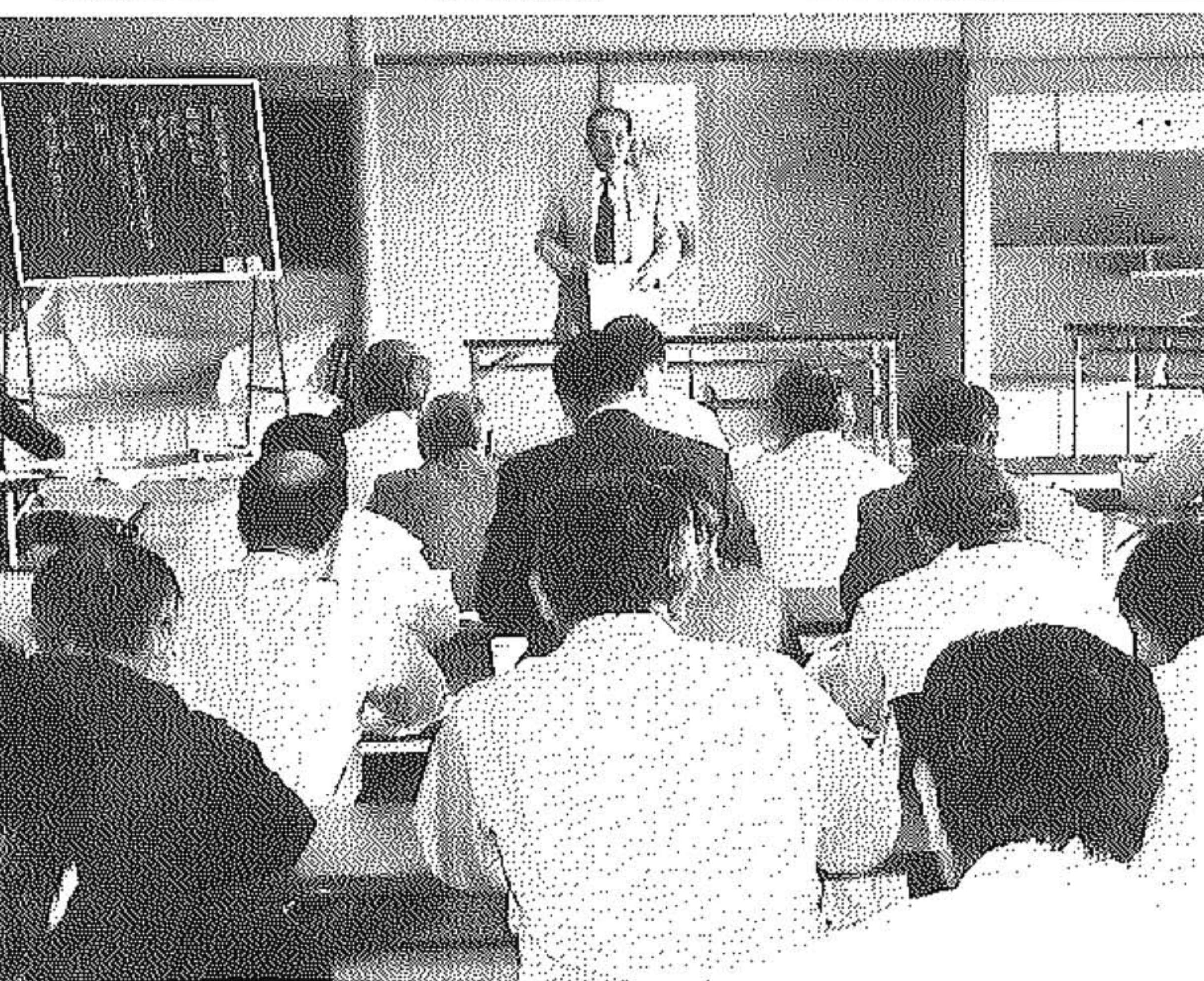
活動方針案や会則が示された設立総会
＝鹿児島市のホテルユニオンで

会長＝木場正人▽副会長＝立元和男(立元建築事務所) 久保満(久保建築設計)▽事務局長＝國料光弘(國料構造計画) 白坂哲也(りそ設計社)▽理事＝鎌田次雄(南鹿建設構造設計事務所) 市来泰之(サン企画) 茶園次春(南茶園建築設計事務所)▽監事＝新村康宏(新村設計構造事務所) 中村数喜(南中村設計)。

県造園建設業協会臨時総会

指定管理者制度対応を

開き、日本造園修景協会(丸山重之会長)は5日、鹿児島市の吉野公園・さくら苑で16年度臨時総会を開き、日本造園修景協会鹿児島支部の事務所を併設することを決めたほか、役員改選において選挙管理委員会を設置し「役員改選に係る取り扱い要領」に基づき実施することを承認した。また、19年度から県においても導入が検討されている、指定管理者制度についての講習会も開かれた。



日本造園修景協会鹿児島支部の事務所併設など決めた総会＝鹿児島市の吉野公園・さくら苑で

県ビルメンテナンス協会 安全意識の高揚を

安全意識の高揚を



気持ちの持ち方で労災を防げる――と挨拶する野元会長＝鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で

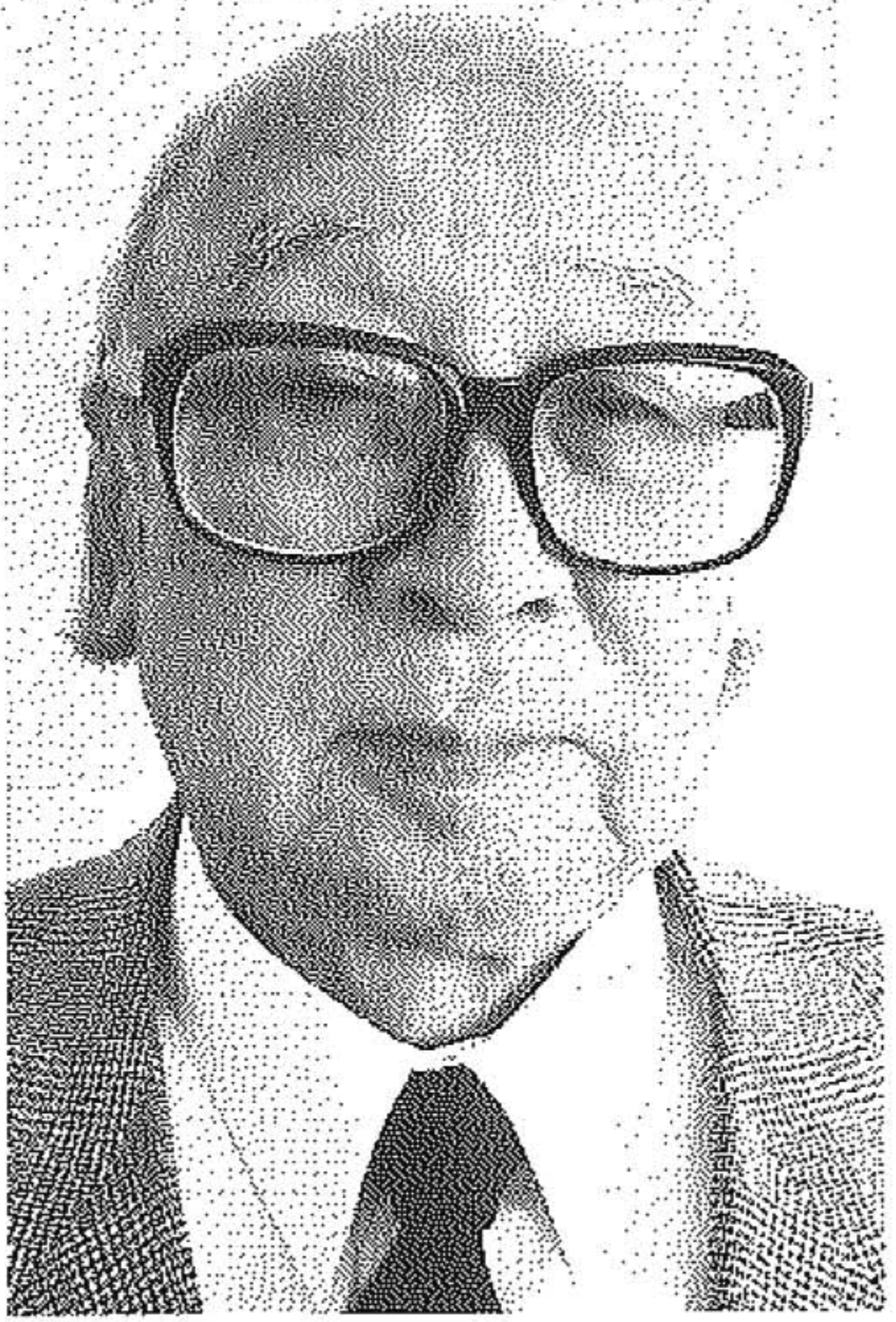
①日本造園修景協会鹿児島支部の事務所併設について②役員の改選方法について③議案を協議し、全て執行部原案通り可決承認した。

総会終了後は、県土木部都市計画課の迫田憲治技術主査を講師に招き「指定管理者制度」についての講習会が行われ、指定管理者としての業者選定のポイントや制度導入におけるメリットなどについて説明。導入についてのメリットとして、運営において民間のノウハウを活かすことができ、経費の削減につながるなどが報告されたほか、各分野の専門家が管理運営等に対して提案を行ってほしいことなども説明された。

このあと、鹿児島労働局安全衛生課の秋山芳徳係長、(株)ビルメン鹿児島支店の猪俣隆彦氏による基調講演も行われた。最後に同協会青年部の飯屋博昭労働安全品質管理委員長が「労働災害の防止の充実、作業員の安全教育と訓練を実施し、設備上万人の施策を講じます」と力強く大会宣言を読み上げ大会を終了した。

優良組合表彰を受賞した県鉄橋工業会理事長

新屋敷 幸男氏



9月に開かれた中小企業団体九州大会で優良組合表彰を受賞。堅固な団結意識を持った事業展開が評価されたが、これも組合員全員の結束力と団結の活動の成果」と胸を張る。

近年、業界は国内の造船や自動車産業の好況に加え、中国への輸出増加等を起因とした鋼材不足に陥っている。体力を維持していくことが必要」と先を見据える。

昭和45年、任意団体としてスタートした同組合。現在の法人組織に変更後、昭和59年からは官公需適格組合として共同受注体制の確立を図っている。厳しい現実の中で今後、約50社の組合員はもちろ

ん、創立10周年を迎える青年部会の活動にも期待を寄せる。「この状況を乗り切っていくためには、若い力が必要不可欠。業界の動向をいち早く

く察知し、さん新たなアイデアを持つて取り組んでいくことが大切」。

鹿児島実業高等学校機械科を卒業後、日本鋳業に入社。約3年半、技術者として朝鮮の精錬所建設にも携わるなど豊富な経験を持つ。昭和25年に(株)新屋敷鉄工所を設立し現在、会長を務める。枕崎市出身、大正13年生まれの80歳。

(田原謙一・報道部主任)

お人

お人

豊明建設株並びに豊栄会安全大会



無災害続伸を訴える林社長
＝鹿屋市の鹿屋商工会議所で

引き続き、梅木隆氏(株)梅木緑光園)を議長に選出し、議事に入り、大会の冒頭、野元会長

は「日常の気持ちの持ち方次第で、かなりの労災を防げると思う。本日の大会を機に、安全に対する意識をさらに高め、今後の業務に生かしてほしい」と挨拶。続いて、来賓祝辞の後、労働安全標語コンクール最優秀表彰者は次の通り。

労働安全標語コンクール最優秀表彰者は次の通り。

豊明建設・豊栄会安全大会

無事故無災害を再認識

豊明建設(株)(林正英社長、鹿屋市)と協力会の豊栄会(北山勉会長・(株)ホームセンターきたやま)は5日、鹿屋市の田崎神社で安全祈願祭を行った。後、鹿屋商工会議所で約100人が参加した安全大会を開き、交通安全意識の高揚と労働災害撲滅を再認識すると共に、無事故無災害の決意を新たに誓った。また社内報第1号の発行もあった。

戸田主任の発声で全員が安全唱和をした後、林社長が「この1年間も無事故無災害でこれに感謝します。これからは業務の改善を目指します。現場での危険要因を減らすこととMY活動(迷惑・予防)を実施していく安全対策に向かってお互いに協力努力して前向きにこの時代を乗り越えよう」と挨拶。北山会長も「前期の実績にわれわれも感謝している」と